

総務政策常任委員会県内調査報告書

令和3年11月12日（金）に、「公益社団法人 フードバンクかながわ」、「子ども食堂 よこすかなかながや」及び「小網代観光振興活性化検討協議会」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 小島 健一 殿

総務政策常任委員会委員長 藤代 ゆうや

総務政策常任委員会県内調査報告書

令和3年11月12日（木）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 公益社団法人フードバンクかながわ、子ども食堂よこすかながわや、小網代観光振興活性化検討協議会
- (2) 出席委員 藤代委員長、亀井副委員長、山口(美)、武田、石川(巧)、梅沢、竹内、菅原(あ)、須田、栄居、松崎、さとう(知)、近藤の各委員
- (3) 調査日 令和3年11月12日(金)

2 公益社団法人フードバンクかながわ

(1) 調査目的

(公社)フードバンクかながわは、近隣の生協など11団体とともに生活協同組合ユーコープによって設立された団体であり、主に食料の収集・配布を通じた生活困窮者等への支援事業に取り組んでいる。具体的には、配達直前にキャンセルされた商品や袋が破れた米など店頭に並べることのできない食品等を、生活困窮者等を支援する団体に届ける取組等を行っている。

県では、SDGsを活用した社会的課題の解決促進に取り組んでいることから、同団体の取組を調査することで、委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

フードバンクは全国に約200施設存在しているが、フードバンクかながわはその中で唯一の公益法人であり、2018年4月から活動を始めている。

賛助会員入会状況は、200団体に近づいており今も入会団体数が増え続けている状況である。

中央官庁を含む行政と合意書を締結するなど連携して活動しており、現在では食品の寄附がある法人等は200者を超えている。

事業はすべて賛助会員の会費とこれら寄附で賄っている。昨今のコロナ禍の影響もあり寄附が急激に増え、取扱量もかなり増えてきている。

取り扱っている食品は、常温保存ができるものと米であるが、来年からは、食品ロスの多い冷凍食品の取扱いも考えている。

支援については、直接個人に食品を提供することは行わず、中間支援に徹しており、支援のミスマッチがないように、行政などの団体を通して行っている。

県内全域に食品を運ぶために9か所の物流拠点を設置しているが、生協の物流を利用して、物流コストを抑えている。

フードバンクから食品を提供する団体については、事前に現地調査を行い、食品の保管場所について確認を行っている。

(参考)

現在の食品ロスについては、外食産業の食べ残しや家庭から出されるものを合

わせて、県内推計で約21万トンであり、その焼却費用は約85億円に達しており、温室効果ガスも5万トン以上排出されている。

(3) 主な説明項目

質 疑 コロナ禍前から活動されているが、コロナ禍で取扱量が膨大になったという説明があった。マンパワーなどの体制強化はどのようにしていたのか。

応 答 常勤のスタッフは3名、非常勤が2名で人数は変わっていない。150トン程度の取扱量に耐えられるような体制であったが、今回の増加量は想定外である。人員は不足している状態である。食品を寄付して頂き、提供することになるが、需給を完全に把握するのは困難で、夏場は米が不足していた。スタッフは助成金を活用し、常勤のスタッフを1名追加することを考えている。横浜市立大学にお願いして、大学のSNSでボランティアの募集を行っていただいている。ボランティアに支えていただいている面もある。

質 疑 外食産業のフードロスで、仕込んだものなどは賞味期限が短く、取扱いが難しいと思うが、どのように仕分けを行っているのか。

応 答 惣菜、生鮮品の取扱はできていない。農産物は、フードバンクで仕分けしていると時間がかかってしまうので、JAに協力をお願いし、こども食堂と連携しながら提供している。情報を素早く提供することが必要になるので、引き続き、効率の良い食品提供ルートを構築するように挑戦していきたい。まずは、冷凍食品の提供に挑戦したいと考えている。

質 疑 横須賀市のフードドライブの実績が多いが、その理由について伺いたい。

応 答 横須賀市は、横須賀市役所と連携が取れており、市内の企業や団体に寄附の呼びかけを行っていただいている。横須賀市の職員が米を持ってきてくれることもある。米を持ち込んでいただくので、総量が多くなっている。

質 疑 米が炊けない方への対応はどのようにするのか。

応 答 防災備蓄品、パンの缶詰などを提供する。コロナ禍で、電気、ガスが使えない家庭も存在している。

質 疑 冷凍食品の提供について、各拠点に冷凍庫を設置するために行政等から補助が出たということだが、どこから補助があったのか。また、大きい冷凍庫は電気代がかなりかかるが、どれぐらいを見込んでいるのか。

応 答 補助は休眠預金を活用した一般社団法人からの支援で、3年間で3,500万円であり、冷凍車を購入する予定である。冷凍庫は、既に拠点である生協には設置済みであるが、さらに増設する予定である。

その際、300リットルから500リットルの冷凍庫を考えており、それほど大きな電気代はかからないと思う。



(4) 調査結果

(公社)フードバンクかながわの貧困家庭を支援する取組、また、生活協同組合の各工程で出た食品ロスを活用した取組を調査したことにより、本県の今後のSDGsを活用した社会的課題の解決促進の施策を審査する上で、参考に資することができた。

3 子ども食堂よこすかなかなかや

(1) 調査目的

子ども食堂よこすかなかなかやは、生活困窮家庭における子供たちへの食の支援を行うため2015年にオープンし、活動している。この取組は食材などを近隣住民、農家やフードバンクの寄附で賄っておりSDGsを活用したものとなっている。

県では、SDGsを活用した社会的課題の解決促進に取り組んでいることから、本施設の取組を視察することで委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

よこすかなかなかやは、自宅で食事を取ることが困難な子供への夕食の提供を月曜日から土曜日まで毎日、また朝食については、夏休み、祝日以外の平日に提供している。また、朝と夜の子ども食堂としての活動のほか、希望者には学習支援を行っている。

当施設の周辺には、援助を必要とする子供が多い。本来は、コロナ禍で、感染予防のためにも自宅で食事を取ることが望ましいが、それができない子供が集まってきている。

また、横須賀市の中学校は、中学校給食ではないので、朝食を取りに来た子供には、弁当を提供している。

加えて、当子ども食堂に通うことができない遠方の子供を支援したいと考え、市内の追浜、鴨居や野比の子供について、配送ボランティアの協力をもらいながら、食事を届けている。

(3) 主な質疑応答

質疑 学習支援は誰が行っているのか。

応答 元教師など、教えることが可能な方に手を挙げていただいて、お願いしている。さらに、eスクールを活用していたこともある。年齢や学習到達レベルが異なるので、難しいところもある。

質疑 よこすかなかなかやに通っている子供のなかには、生活保護などの行政の支援を受けていない方もいると思うが、その場合、どのように関わっているのか。

応答 行政の支援を受けているが、それでも苦しい状況にある子供が多い。また支援されていない子供もかなり多いと思う。よこすかなかなかやに通っている子供からの紹介という形で、そういった子供も今後受け入れていきたいと考えている。

質疑 当施設は何名で運営しているのか。

応答 登録している職員は約20名程度であったが、コロナ禍の影響で、現在は一、二名である。

質 疑 運営費を捻出することも困難だと思うが、今後、行政に対して、どのように働きかけていこうと考えているのか。

応 答 助成金なども考えているが、申請が通らない状態である。企業と連携して、弁当の販売も考えているが、薄利多売なので厳しい状況である。

質 疑 当施設の運営が立ち行かなくなると、多くの子供たちが困ることになる。継続的に支援を行っていくためには、行政の支援が必要ではないか。

応 答 全国の子ども食堂で、資金繰りには苦勞しており、支援活動を中止する原因にもなっている。助成金などの申請方法をより簡易にしてほしい。



(4) 調査結果

子ども食堂よこすかなかなかやの地域ぐるみで生活困窮家庭の子供たちを支援する取組を調査したことにより、本県の今後のSDGsを活用した社会的課題の解決促進の施策を審査する上で、参考に資することができた。

4 小網代観光振興活性化検討協議会

(1) 調査目的

小網代区、みうら漁業協同組合小網代地区及び三浦市観光協会油壺地区などでつくる小網代観光振興活性化検討協議会では、海底熟成ワインの試作等、地元の事業者と連携した新たな観光資源の創出や、障害者就労施設と連携したワインボトルの蜜蝋コーティング作業による障害者就労支援の取組などを行っている。

県では、県と三浦半島地域4市1町と連携し、2015年から三浦半島魅力最大化プロジェクトに取り組むことで、三浦半島地域の活性化を推進している。そこで、同協議会における地場産業の活性化に資する地域の特色ある取組について視察することで、委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

小網代観光活性化検討協議会は、地元の漁業関係者が集まって活動しており、同地域の魅力づくり事業の一環として、海底熟成ワインの製造に取り組んでいる。

その地域の地形を生かし、小網代湾のリアス式海岸での波の振動を活用したり、ワカメの養殖で培ったノウハウで海水温の分析を行うなど、その熟成度を高める工夫をし、地域の地形や特性を生かした商品化に積極的に取り組んでいる。

また、横須賀市追浜では、空き店舗の活性化対策として、関東学院大学の学生と共同で開発したヴェルニーワインを、商店街の空き店舗を活用して醸造・販売している。コルクから海水が入り込まないように蜜蝋でコーティングし、海底10メートルから12メートル程度に沈める必要があるが、その作業を、地域活性化及びSDGsの取組の推進という観点から、障害者就労支援センターに協力を依頼している。

(3) 主な質疑応答

質 疑 当事業を始めた理由は何か。

応 答 事業者から、ワインの単価を下げたいという相談があったので、蜜蝋を使うことを考案した。蜜蝋はミツバチの巣を溶かして不純物を取り除いたもので、食べても問題がないものである。小網代の森で採れた蜜蝋を使用している。

質 疑 海で熟成しようとした理由は何か。

応 答 静岡県の伊豆で先行事例があった。大学の研究によると、苦味成分や渋味成分が分解されるということである。

質 疑 ヴェルニーワインと熟成させたワインの価格は、どれぐらい違うのか。

応 答 我々事業者は、2,600円でワインを預かっている。付加価値をつけて、3,900円で販売している。

質 疑 販売実績はどうか。

- 応 答 観音崎京急ホテルで販売したところ、72本が2週間で売り切れた。
 質 疑 海底に沈めたワインが流されたという話があったが、現在、流され
 ない工夫は行っているのか。
 応 答 倉庫会社から、新古品の60キログラムの鉄かごを提供いただくこと
 で、流されないように工夫している。以前はかごだけで沈めていた。
 鉄かごに葉を縛り付け、漁礁としても利用できる。
 質 疑 蜜蝋の防水性は実証されているのか。ボトルの中に海水が混入する
 ことはないのか。
 応 答 これまで3年間、コーティングの試作を重ねて研究してきた。
 質 疑 ワインの熟成期間はどれぐらいか。
 応 答 12月から6月までの半年間である。
 質 疑 三浦市にはぶどう畑、海と蜜蝋がある。三浦市のぶどうでワインを
 製造してはどうか。
 応 答 最終的にはワイナリーを造りたいと考えている。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



(4) 調査結果

小網代観光活性化検討協議会のリアス式海岸など三浦半島地域の特性を生かしたワインづくりや、障害者就労施設と連携した作業などを通じた同地域における地域活性化の取組を調査したことにより、本県の今後の三浦半島魅力最大化プロジェクトによる地方創生、地域活性化の施策を審査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

- 1 随 行 者 松本主査（議会局議事課）、石井主幹（政策局総務室）、
細井主査（総務局総務室）

- 2 調査箇所側出席者
 - （1）公益社団法人フードバンクかながわ
藤田フードバンクかながわ事務局長、高澤政策局長、太田いのち・未来戦略本部室長、高野政策局企画調整担当課長、塩野総務局企画調整担当課

 - （2）子ども食堂よこすかなかながや
和田よこすかなかながや代表、高澤政策局長、太田いのち・未来戦略本部室長、
湊SDGs推進担当課長、高野政策局企画調整担当課長、塩野総務局企画調整担当課長

 - （3）小網代観光振興活性化検討協議会
三上小網代活性化振興検討協議会会長、出口小網代活性化振興検討協議会理事、
高澤政策局長、高野政策局企画調整担当課長、高安自治振興部長、塚本地域活性化担当課長、塩野総務局企画調整担当課長、能勢横須賀三浦地域県政総合センター所長